

統計トピックス

10月 北陸人は見栄っ張りか堅実か？ — 結婚総費用額動向

結婚情報誌「ゼクシィ」によると、北陸エリア（富山・石川・福井）350組のカップルに対するアンケート調査の結果、結婚総費用額（挙式関連・新婚旅行・新生活準備資金を含む）が全国13エリア中トップの716万円になり（うち挙式関連費用は284万円で8位）そのうち親や親族からの援助を受けているカップルの割合が96%を占め、援助額平均も421万円と2位の東海エリアを大きく引き離す調査結果が出ました。

不況下の中、結婚式の形式も様々になり費用も全体としては縮減傾向にありますが（結婚式場における1件あたりの売上高（全国平均）は前回調査（H8）に比較して7.2%減の258万円：H14年特定サービス産業実態調査より）、中にはハウスウェディング等、従来の形式にとらわれないで、費用にも糸目をつけない「自分らしい」結婚式を行うカップルも増えつつあります。

しかし、この調査結果からは、親からの援助は受けているものの結婚式そのものよりもその後の生活にお金をかける堅実な北陸人の姿が見えて来るといえそうです。また、引出物における平均支出額も全国1位の9,900円となり、出席者に満足してもらおうとする傾向も表れています。

11月 不況の影響？ — 自由時間と観光に関する世論調査

1日付で発表された内閣府の「自由時間と観光に関する世論調査」によると、この1年間に1泊以上の国内旅行をしなかった人が45.5%で、前回調査（H11）に比べて5%増えている事が分かりました。旅行しなかった理由としては「金銭的に余裕がない（34.3%）」が多く、前回最多理由の「連休が取れない」と比べて長引く不況が余暇の過ごし方にも大きく影響を与えたことが見て取れます。

しかし、国土交通省がまとめた「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」によるとH14年における国民の旅行消費額は前年に比べて0.9%増の24兆320億円（推計）であり、国内・国外ともに僅かながら増加しています。前年の米国同時多発テロの影響の反動ともいえますが、このところの景気判断が上向いていることもあり、国民の旅行回帰が期待されるところです。

また、日本への外国人観光客が増えて欲しくないと思っている人が32.4%に上り、その理由として外国人犯罪の増加を挙げている人が90%を超えていることが分かりました。警察庁発表によるとH15年1月～10月期における来日外国人の検挙件数・検挙人員は前年同期比でともに増加しており、この現状が世論に影響を与えたことは否めません。

12月 近頃の高校生像 — 平成15年度学校基本調査より

2日付で県が発表した「H15年度学校基本調査」によると、県内の高校進学率は前年度比0.1%増の98.6%で4年ぶりに全国第1位となったことが分かりました。その他、大学等の進学率が前年度比0.1%増の49.8%となり、全国順位は下がったものの9位となり、引き続き高い進学率を誇っています。

これは、人口10万人当たりの学校数（大学・短大・高専）が全国3位の多さから来るといえますが、背景に長引く不況から高校卒業者の就職状況が悪化している（10月末日の県内高卒就職希望者の内定率は56.4%）ことも大きな影響を与えているといえそうです。また、定時制高校の入学者数が一時的に増加している現象も同様に長引く不況が影響を与えていると思われます。

またその他に、少子化の影響が数字の上にもはっきり現れており、幼稚園と定時制高校を除く全ての生徒数が対前年割れが続いています。なお、幼稚園の入園者数の増加は全国的なものであって、要因として働く母親が増えていることが推察できます。